

# 中央大学支部 中大技術士会

## ニュースレターvol.17

会員の皆様へ

今年は猛暑が長引き本当に暑い夏でしたが、ここのところ朝晩冷え込むようになりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。味覚の秋、紅葉のシーズンと秋も深まり、仕事もやりやすくなり、かつ行楽の季節です。野外での活動も積極的に行って行きたいです。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

なお本年度 10 月 28 日には多摩校舎にてホームカミングデーが行われ、11 月 2 日～4 日は白門際が実施されました。本会もこれらの行事に参加しました。詳しい報告は次号に掲載予定です。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>) から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。

それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「中大技術士会の更なる発展に向けて」：中大技術士会 副会長 内藤堅一	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会	3 ページ
■ CO2 環境対策研究会	3 ページ
■ 部会報告	4 ページ
活動計画	5 ページ
■ 企画部会	5 ページ
■ 大学技術士会連絡協議会（第 5 回通常総会）	5 ページ
エッセイ	6 ページ
■ 「モンゴル旅行記」：内藤堅一さん	6 ページ
■ 「新緑の日光」：篠崎博文さん	9 ページ
技術士第二次試験合格者から	11 ページ
■ 「建設部門 2 次試験受験真最中」：鈴木晶久さん	11 ページ
技術士第一次試験合格者から	12 ページ
■ 「十年後の未来」：鈴木 孝司さん	12 ページ

■ 「中大技術士会の更なる発展に向けて」：中大技術士会 副会長 内藤 堅一（建設部門、総合技術監理部門）

今年は大中技術士会が発足して8年目になるとのことですが、私は草創期には参加していませんで、幹事として活動するようになって5年目になります。私は中大技術士会の副会長、企画部会長、CO2環境対策技術研究会の幹事長を仰せつかっています。企画部会では講演会の企画やホームカミングデー、白門祭への参加、法曹会、公認会計士会との連携のための活動をしています。



昨年「白門技術士会」が学会会の支部昇格に併せて「中大技術士会」になりました。支部昇格後は学会会のいろいろな行事に参加しています。これを機会に中大技術士会の活動がますます活発になり、多くの会員が活動に参加することが期待されます。しかし、多くの企画が動いていますが、一般会員の方々の参加が今一つと私には感じられます。

会員が中大技術士会に期待するものはそれぞれ異なると思います。自己研鑽として講演会等に参加する、人脈形成、大学の先生との共同研究等様々なものが考えられます。中大技術士会はこれらの多様なニーズに応えられるメニューを用意しなければいけないと考えます。現在の中大技術士会の活動は、幹事メンバーの頑張りでも多方面にわたって活動しています。これが一般会員に見えないために活動に加わる機会を提供できていないのではと危惧しています。

私事になりますが、私は建設コンサルタントに勤務していましたので、技術士の資格は業務のために取得しました。技術士資格取得後、社命で日本技術士会に入りましたが、部会活動等には全く参加していませんで、時々CPD中央講座に参加する程度でした。業務が忙しい上に、日本技術士会の活動が分からなかったというのが実態だったと思います。中大技術士会も会費ゼロということで会員にして頂きましたが、ほとんど参加する機会がありませんで、総会に顔を出す程度でした。そんな中で会長からメールでCO2環境対策技術研究会に誘われたのがきっかけで、研究会幹事長、白門技術士会幹事、中大技術士会副会長とあっという間に今の立場になってしまいました。これはたまたま私が、会社で非常勤になり、退職した時期に重なります。少し暇ができたから活動できたということになると思います。

会員には、時間的にやりたくてもできない方、少しは活動に時間を割くことができる方などいろいろな方がおられると思います。

中大技術士会は講演会の企画や、「CO2環境対策技術研究会」の活動、「低緯度太平洋ソーラーセル搬送筏発電システムの成立性研究」での大学の先生方との共同研究、更に「ミミズロボット」での研究室と企業との仲介をするなどの活動をしています。

中大技術士会のホームページにも情報は掲載されていますが、やはり見るだけでは理解できないのではと私は思います。それで、「中大技術士会報告会」の開催を提案します。総会の時に中央大学の先生方に講演をしていただきそれを聞くのが慣例になっていますが、総会での活動報告だけでなく、実際にどんなことをやっているのか、どのように活動に参加できるのかなどを含めて講演形式で話を聞いて理解を深めていただき、参加してみようかなと思っていただくのが良いのではと考えます。一緒に活動する仲間を増やせるような試みをしていきたいと思っています。以上

## 活動報告

### ■ 幹事会

本会では概ね月に1度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成24年度 第3回幹事会	7月24日(火) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会から報告・計画が発表された。</li> <li>CO2環境対策技術研究会から研究会、幹事会の報告があった。</li> <li>講演会の計画を企画部会から発表された。</li> <li>7月22日、8月4日、5日行われるオープンキャンパスへの参加者を決めた。</li> <li>科学技術と倫理、技術者倫理の各講座が無事終了した報告があった。次年度の講師派遣については、大学支援部会から次回幹事会以降案が発表される。</li> </ul>
第4回幹事会	9月25日(火) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会から活動報告があった。</li> <li>CO2環境対策技術研究会から研究会、幹事会の報告があった。</li> <li>中大法曹会との交流会、講演会の内容と参加要請が企画部会から発表された。</li> <li>各学科との協力事項について、状況の説明があった。</li> <li>ホームカミングデー、理工白門祭について内容の説明があった。各企画は企画部の項を参照願います。</li> </ul>

### ■ CO2環境対策研究会

本研究会は、地球規模の課題となっているCO<sub>2</sub>対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つCO<sub>2</sub>対策に関係する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることを目的としています。なお、本研究会は8月から翌年の7月を1期としています。本号では前号(2012年7発行)以降の活動内容・予定を報告します。

詳しい報告は本会HP (<http://www.chuo-u-pej.org/>) をご覧ください。

行事名	開催日程	活動概要
H24年度第1回幹事会 参加者：幹事5名	H24年9月6日(木) 18:30~20:00	第3回報告会の応募状況 第14回研究会の応募状況 話題提供：林幹事「理科支援員を経験して」
第3回報告会 参加者：講演会15名 交流会12名	H24年9月15日(土) 見学会 14:00~17:00 交流会 17:30~19:30	<ol style="list-style-type: none"> <li>村上会長：レジ袋の減少とCO<sub>2</sub>の減少との関係</li> <li>大石副会長：CO<sub>2</sub>吸収材の最新の研究動向</li> <li>中尾幹事：電気事業の概要について</li> <li>松本幹事：環境にやさしい駅づくり</li> </ol>
第14回研究会 参加者：見学会22名 交流会10名	H24年9月21日(金) 見学会 13:30~16:30 交流会 17:00~19:00	東京都砂町水再生センター 東部スラッジプラント見学

行事名	開催日程	活動概要
H24 年度第 2 回幹事会 参加者：幹事 7 名	H24 年 10 月 18 日（木） 18：30～20：00	第 3 回報告会の報告 第 14 回研究会の報告 第 15 回研究会の企画： 11 月 30 日（金）キッコーマン(株) 話題提供：大石副会長 「大石研究室の研究テーマ」

## ■ 部会報告

### ○広報部会

項 目	内 容
サーバー運営	① 会員向け ML の登録内容の確認整理 開催案内等のメールが届かない会員一覧作成。総務部会より確認を行い連絡が取れない場合は、ML から削除する方針。 <b>【会員の皆様へのお願い】</b> 転勤、転職等で連絡先が変更になった場合、幹事会までご一報ください。 ② 新規入会者の ML 登録 ③ サーバ利用の更新手続き実施。
ニュースレターの発行	① ニュースレター vol.16 の発行 ② ニュースレター vol.17 の作成および発行
HP 新規掲載	① ニュースレター vol.16 の掲載 ② 第 8 回定時総会の様子掲載 ③ 中大法曹会との交歓会、中大技術士会主催講演会の開催案内掲載 ④ CO2 環境対策研究会第 14 回研究会報告書掲載 ⑤ 中大技術士会主催講演会の様子掲載 ⑥ 第 2 回中大法曹会との交歓会の様子掲載。 ⑦ ホームカミングデー出展の様子掲載 ⑧ 第 46 回理工白門祭出展の報告掲載

### ○総務部会

項 目	内 容
幹事会の開催、運営	幹事会の開催、運営を行った。
名簿の管理、会計管理	日常的な名簿の管理を継続して行っている。 ・ 8 月 4 日現在、会員数は技術士 182 名、技術士補 31 名、準会員 8 名
学員会事務局との連絡調整	下記の行事に関する学員会事務局との連絡調整 ・ ホームカミングデー（10 月 28 日）「無料技術相談」実施 ・ 理工白門祭（11 月 2 日～4 日）「技術士の受験相談」等の実施

### ○企画部会

項 目	内 容
講演会の実施	下記の講演会を実施した。 日時：H24 年 10 月 19 日（金）18:00～19:30 講師：中央大学理工学部生命科学科 原山重明教授 講演：バイオテクノロジーとは何か？ 会場：中央大学後楽園校舎 2643 号室

項目	内容
法曹会との連携	<p>H24年10月4日(木)法曹会との交歓会を行った。公認会計士会からも参加があり、今後の連携を考えることとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演会 18:30~20:00 演題:「事故発生の原因調査の実例」講師:中大技術士会会長 金川護 参加者:本会16名、法曹会14、公認会計士会2名参加</li> <li>交流会 20:15~21:30 参加者:本会16名、法曹会12、公認会計士会3名参加</li> </ul>

## 活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

行事名	開催日程	活動概要
講演会の企画	H25年1月	講師:中央大学理工学部物理学科 杉本教授 講演:未定
第5回総会	H24年11月13日(火) 協議会 15:00~17:00 懇親会 17:30~19:00	場所 技術士会第二荳手ビル5階 AB会議室 ① 総会 ② 技術士制度の改正について ③ 懇親会

上記以外にも、幹事会(ほぼ毎月開催)や多くの行事を開催します。また、「大学との折衝」「各学部との交渉」なども行います。会員の皆様にも気軽にご参加いただきたく、役員・幹事一同お待ちしております。



今回は、幹事会メンバーでもあります内藤さんと篠崎さんからエッセイをいただきました。

### ■ 「モンゴル旅行記 2012 年 7 月 2 日～7 日」：内藤堅一さん（建設部門）

○私は今年 2 回目のモンゴル乗馬ツアーに参加しました。3 年前に簡単な旅行記をニュースレターに掲載して頂きました。今回もモンゴル旅行記を書くようにと依頼がありましたので、前回とは見方を変えて垣間見たモンゴル事情みたいなものを書いてみます。

#### 1. はじめに

今回は乗馬クラブの男性の仲間と 2 人で参加し、現地では乗馬経験の全くない 5 人のメンバーが加わり 7 人の 3 日間の乗馬ツアーでした。今回は同じ乗馬クラブの男性 2 人（前回と同じ）と女性 4 人の 6 人で参加し、現地でやはり乗馬経験のないメンバーが 1 人加わり 7 人での 3 日間の乗馬ツアーでした。今回は経費縮減のため、韓国乗り継ぎで行きましたが、乗り継ぎに疲れたので、今回はモンゴル航空の直行便を利用しました。しかし、今回は出だしからモンゴルからの飛行機が飛んでこないという天候上のアクシデントで、約 7



草原で休憩する参加者、ガイドと馬たち

時間成田空港で待機することに始まり、現地では 2 回も雷雨に会い、びしょ濡れになるなど予想外に厳しい旅になりました。しかし、前回のようになりすぎて落馬することもなく、下痢をすることもなく、最終日のバーベキューのお別れパーティーも飲んで食べて、体調はすこぶる好調でした。

#### 2. 乗馬ツアーは乗馬経験なしでも参加できる

今回は、乗馬未経験者は 2 日間の乗馬で、3 日目はウランバートル市内観光、我々 6 人は 3 日間の乗馬ツアーである。2 日目までは午前、午後の 2 回乗馬に出る日程で、昼はキャンプ村で昼食、ゲル内で昼寝をしてからまた出発するという行程です。

未経験者は仙台から参加した中年の男性でしたが、全く乗馬経験なしで 2 日間我々と一緒に行動しました。前回は書きましたが、馬は集団で移動する習性があるので、馬主がエスコートすると声だけで一緒に歩きます。

3 日目はお弁当を持って 1 日行程のツアーに出かけます。3 年前に思いきり走った冬営地の大草原をどこまでも行くツアーでした。

#### 3. モンゴル馬について

モンゴル馬は背が低いので、踏み台なしで乗ることができます。走るときの振動が小さいのも特徴だと思います。馬の歩き方は基本的に 3 種類あり、常歩（なみあし）、速歩（はやあし）、駈歩（かけあし）の順に速くなり、馬の振動が変わります。常歩は 4 拍子、速歩は 2 拍子、駈歩は 3

拍子です、これに追従するための練習を乗馬クラブではします。我々が普段乗っているサラブレッドでは、ビギナーは駈歩するまで1年くらいかかります。モンゴル馬は背が低く振動が小さいので速歩までは、ビギナーでもすぐに対応できるようです。タツナを持ってバランスが取れるようになると一人でエスコートなしで乗ることができます。

もう一つの特徴は、集団生活をしているせい、馬どうし喧嘩しません。オス馬は去勢しているそうですが、サラブレッドは去勢した馬も雌馬も、前後につきすぎても、横に並んでも蹴ろうとしていがみ合いますので、馬間(ばかん)を取るように指導されますが、モンゴル馬は歩く時に馬体が接しても喧嘩しませんし、馬を繋ぐ時も横に張った綱に繋がれて体を寄せ合っています。

馬体は小さいですが、駈歩は結構速いです。乗馬クラブの駈歩はコントロールした駈歩をするように指導されますが、モンゴル馬は駈けだすと競馬馬のように爆走します。今年は爆走されて、一瞬、落馬するのではと不安になりましたが、事なきを得ました。



横に張ったロープに繋がれる馬たち

#### 4. 垣間見たモンゴル事情

##### 1) モンゴルの天気

日本人が旅行できるのは、7月～8月の2か月程度と思います。夏の平均気温は19℃、30℃を超える日もあるそうですが、夏の1日に四季があります。昼間は半袖で乗馬に出ますが、朝晩は長袖シャツが必要です。3年前に夜11時過ぎに星を見上げた時にはセーターの上にジャンパーを着て出ても30分もすると寒くなりました。キャンプ村にいる間は、夜になると管理人がゲルの中のまきストーブに火をつけに来ます。最初はすぐ暑くなってゲルの戸をあけて温度を下げますが、2日目からはストーブにも慣れてきます。冬は平均気温が-25℃まで下がります。10月26日の天気予報を見ると最高気温12℃、最低気温-7℃になっています。

6月～8月が降水量の多い季節だそうですが、今回のツアーでは良く雨が降りました。山の向こうに黒い雲が現れるとそれがどんどん流れてきます。黒い雲が頭の上に来ると、突風と雷と強い雨がいっぺんに襲ってくるという感じです。

1日目の午後に乗馬して出発した直後に黒い雲に覆われ、突風が吹くと馬は皆、風下に頭を向けて止まってしまいました。下馬してカッパを着た時には既にズブ濡れです。馬を置いてキャンプ村まで歩いて帰りました。馬には1分も乗っていませんでしたが、雨風の中を、山を登って下らないとキャンプ村に帰れません。馬は後で馬主が集めるのだそうです。ゲルの中ではすぐにストーブを炊いて貰い、着ていたものを全部脱いで乾かしました。

3日目の1日行程のツアーに出た時も午後に雨風に苦しめられました。この日は朝から曇り空で寒かったので、カッパを着て出かけたのですが、大草原の中の小高い丘の上で昼食をとって、帰路に着くとすぐに雨が降ってきました。最後のツアーだったのですが、カッパを着ていても顔に当たった雨が胸から入り込んできますし、ズボンもカッパがかからないので、雨がパンツにまで浸みこんできます。約2時間、雨の中の行軍です。私が厳しいと感じたのですから、女性陣4人

はもっと大変だったと思います。キャンプ村に帰るとウランバートルに帰る日なので、慌ててストーブで着ていたものを乾かして、スーツケースに詰め込むという作業が待っていました。

## 2) モンゴルの国土と人口

モンゴルは人口よりも牛、馬、羊などの動物の数の方が多いと言われており、日本の4倍の国土面積に人口260万人、首都ウランバートルに100万人が住んでいるとのこと。私の行ったのはウランバートルとテレルジで、中央モンゴルに属します。

西モンゴルは山岳地帯で4,000m級の山と湖があり、かつてのモンゴル帝国の首都カラコルム（現在はハラホリン）も西モンゴルに属します。北モンゴルはロシアに接しており、フブスグル湖、ダルハン、スフバートル等の都市があります。

東モンゴルは中国に接し、最も東にあるスンベル村は1939年のノモンハン事件の跡地です。（南下政策を取るロシアと戦争したのが日露戦争、日本は日露戦争に勝利し、中国に進出した。1939年5月満州国（拡大政策を取る日本軍が後ろ盾）とモンゴル人民共和国の国境守備隊の小競り合いに始まり、最後はモンゴルの後ろ盾のソ連軍に日本軍が壊滅的な敗北をした事件。）

南モンゴルはゴビ砂漠になっており、中国の内蒙古自治区に接しています。シベリア鉄道（私は支線と思う）がウランバートルから北はロシア、南は中国に通じています。テレルジからウランバートルを経て流れるツール川は北のロシアのバイカル湖に流れています。大相撲の白鳳はウランバートル出身、日馬富士はゴビアルタイ出身です。相撲の力士紹介のアナウンスを聞くと興味深いものがあります

都市に人口が集中しているため、ウランバートル周辺は高層建物、低層建物、ゲルなどが混在しています。また、交通事情もかなり悪いようです。モンゴルは牧畜以外に目立った産業がありません。

帰りのウランバートル空港で元PCIの人と会いました。何をしに来ているのか聞いたところウランバートルの都市計画関係の業務とのことでした。



乗馬クラブの仲間6人、水色のカッパが筆者

## 3) モンゴルの若い人は日本が好き

大相撲の秋場所で日馬富士が2場所続けて15戦全勝で優勝し、待望の横綱が誕生しようとしています。横綱まで昇進した朝青龍、白鳳、日馬富士も皆モンゴル人です。モンゴルからはまだ多くの若者が大相撲の門をたたいているようです。モンゴルでも相撲人気は高く、ガイドは相撲事情も良く知っています。

今回の男性ガイドは日本に行ったことはないと言っていました。大変流暢に日本語を話します。彼女は日本に留学中とのことで、ツアーの最中にも彼女から携帯電話がかかっていました。モンゴルの大草原まで国際間の携帯電話は通じますし、我々のツアーの調整も常に携帯電話でやり取りをしています。

女性のガイドは日本の高校に留学していたとのことで、ちょっとアクセントが気になりますが



やはり上手に日本語を話します。来年には美容師になるために来日するとのことでした。昨年のガイドも男性2人は日本に留学すると言っていました。日本語が話せるからでしょうが、日本に対する関心は高く、日本で就職する気持ちも強いようです。ガイドの話によると年寄りにはノモンハン事件の記憶から日本が嫌いな人が多いとのことですが、若い人は相撲人気もあってか日本が好きな人が多いとのことでした。

日本人に欠如しているハングリー精神が旺盛で、勤勉な若者が多いという印象です。ガイドは皆遊牧民の出身で乗馬は上手です。

#### 4) 道路事情は悪い

ウランバートルからキャンプ地のテレルジまでの道は、草原の中をシベリヤ鉄道（中国へ向かう支線）と並行して走っていますが、舗装が悪く穴だらけで、車は穴をよけてジグザグに走ります。3年前より道が悪くなったように感じられます。道路工事は中国がやったとのことですが、基盤工事が手抜きされているのではないかとされるし、舗装を修理するという概念がないのか、全く修理されずに使われています。

ウランバートル周辺に来ると今日午後に大雨が降った後なので、道路が冠水しています。ドロドロの道を多くの車が我先に行きかう、道路の脇は舗装されていないので、人は長靴で歩いている。昭和30年代の日本の道路に似ていると思いました。

ウランバートルの政府宮殿周辺には片側6車線の立派な道路がありますが、夕方の時間帯はここも大渋滞でした。交差点では信号はありますが、警察官が誘導しています。

以上まとまりのない見聞記になりましたが、普段狭い柵に囲まれた乗馬クラブから広い草原に出て、思いきり走れるのがモンゴル乗馬ツアーの醍醐味です。

以上

#### ■ 「新緑の日光の旅 2012年6月29日」：篠崎博文さん（機械部門）

今年の夏は本当に暑くて大変でした。しかしちょっと足を延ばせば、涼しくて新鮮な空気に出合えるのが日本の良いところです。

地元の先輩に誘われ、新緑の日光へと日帰りの旅に出たのは、今年の6月29日の事でした。もちろん貧乏旅行のため「快速電車」を使用しました。

いくつになっても旅行と言うのは楽しいもので、まるで子供の様に胸を弾ませ車中を過ごしました。すでに雨の季節に入っておりましたが、雲の切れ目から強い日差しも感じられ、この時期にとってはちょうど良いお出かけ日和でした。

「まもなく終点の東武日光に到着いたします。東照宮、中禅寺湖方面ご利用の方は・・・」

東照宮へと続く日光街道は緩やかな坂道で、住宅が並び空地も目立つようになっていました。昔は道沿いにたくさんのみやげ屋さんが並び、観光地日光の雰囲気は十分にありました。これも大不況の影響でしょうか？

しかし変わらない物も多数あります。観光名物の「神橋」もその一つです。アーチ形の赤い橋は、いつも日光の雰囲気を感じさせ、疲れた気持ちをいやしてくれたものです。

「先輩！日光名物の一つ神橋です。」

「ほぉ～とうとう来ましたね。いい所です。神橋！是非渡ってみたいですね～」

「あの橋は渡れませ〜ん。」  
「ほう・・・それは残念です。」



赤い橋「神橋」！ここは変わりません。静かに流れる水の音がとても心地よく聞こえます。新緑の二荒山神社もこれからは紅葉のシーズンになります。日光は初夏から晩秋にかけてが最も良いと思います。

中大技術士会の人達とも、楽しい日帰り旅行をしたいと思っております。



以上

昨年度、技術士二次試験合格された鈴木晶久さんから体験談を投稿いただきました。現在は建設部門の受験に向けて準備中とのこと。

### ■ 「建設部門 2 次試験受験真最中」：鈴木晶久さん（上下水道部門）

皆様はじめまして。本年度より中大技術士会に入会させていただきました、鈴木晶久と申します。理工学部土木工学科を 6 年かけて卒業後、三重県に入庁し、主に建設事務所を中心に異動しはや 13 年目になります。

私が技術士試験を受けようと思ったきっかけは、平成 18 年に職場で技術士 1 次試験（建設部門）の勉強会に誘われたことからです。1 次試験受験後、しばらく 2 次試験を受けるチャンスが無かったのですが、平成 21 年に三重県企業庁の水道事務所に異動になりました。それまでから一転、水道（用水供給事業）の業務に従事することになり大変な戸惑いを感じました。しかし水道技術に接するうちに「水道をとことん極めてみよう」という思いにかられ、技術士 2 次試験上下水道部門を受験することにしました。平成 22 年度に不合格の屈辱を味わい、平成 23 年度に心機一転勉強に励み、何とか合格できました。勤務先の部署に中大理工学部の先輩で上下水道部門技術士の方がおられたという大変恵まれた環境で受験できたことが大きかったと思います。

さて、私は本年度より再び建設事務所で仕事をしており、建設部門（道路科目）で 2 次試験受験真最中の身です。ですからこれから技術士 2 次試験を受験される皆様に合格の秘訣お教えするどころか、私が教えていただきたい位の気持ちです。私が前回も今回も心がけているのは「楽しく学ぼう」ということです。

私が上水道及び工業用水道科目を受験した際に最初に受験対策で読んだ本は「美味しんぼ 60 巻：水対決」です。そして水道遺跡めぐりや利き水の旅を楽しみました。写真はマレーシアペナン島の水管橋です。去年 2 次試験受験に際しシンガポールとセットで水道施設めぐりに訪れました。本年度は道路科目受験にあたり 5 月末ごろまで街づくりの参考にと京都や飛騨の街歩きを楽しんでいました。またベトナムホーチミンを訪れ日本の交通事情とのギャップを楽しんできました。



皆様のご健勝と、自分についてはなんとかこの冬に訪越の成果を渋谷で発揮できます事を願い、結びとさせていただきますと思います。

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は、化学部門で一次試験に合格した鈴木孝司さんに書いていただきました。日々精進、頑張ってくださいね。

### ■ 「十年後の未来」：鈴木孝司さん（化学部門）

研究室で実験をしながら、ふと考えることがある「十年後の自分は何をしているか?」。大学生になったばかりのとき、将来自分がどうなりたいか?何がしたいか?迷走していた時期がある。結局答えがでないまま、化学を専攻してるので、大学でやってきたことも生かすから研究者が無難かなと考えていた。

技術士について知ったのは、私の気持ちがふわふわしていた頃だ。大学三年生の夏の技術士ガイダンスで技術士の資格について聞き、「時間もあるし、テスト勉強して一次試験を受けてみようかな。」と思ったことがきっかけだ。

思い立ったものの、その年度の試験の申込が終わっていたので、来年度の試験の受験を考えた。最初は専門分野の化学の範囲が広がったことや共通科目の物理が、高校のときの知識すら定かではなかったので二カ月前から勉強する予定だった。しかし、次年度の申込後、研究室での生活になかなか慣れず、試験勉強を本格的に始められなかった。結局、試験一カ月前に毎日対策本を電車の中で1時間読み、本格的には1~2週間前に過去問を解いた。時間がなかったので、自分の知っている分野や計算問題など解きやすい問題で合格点+3点分取れるように範囲を絞って勉強した。テストでも知識があればすぐに解ける問題、計算問題の順で回答していき、余裕を持って解くことができた。

試験後は、技術士の方とお話することが増えました。話を聞いているうちに、専門知識を生かせるのは、何も研究者だけじゃないことがわかり、自分の視野が広がった。これから始まることが分かり、将来技術者として社会に貢献していきたいと考えるようになった。最近では実験をしながら、ふと考えることがある「十年後の自分がどこで、どのような形で、何をしているか?」。十年後がとても楽しみです。そのためにも、日々精進です。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ [toiawase@chuo-u-pej.org](mailto:toiawase@chuo-u-pej.org)

2012年11月号 中大技術士会 広報部会 発行

中大技術士会ホームページ： <http://www.chuo-u-pej.org/>